

B. 生育調節剤

薬 剤 名	剤型	有効成分および 含 有 率	委託会社名	対象芝草名	対 象 (処理方法)	試 験 場 所	前 回 判 定	今 回 判 定	今回判定理由・ 内容・その他
1. (アトニック) ○ 植物生長 調整剤 ● アトニック	液剤	① 5-ニトロ グアヤコール ナトリウム ………0.1% ② オルソニト ロフェノール ナトリウム ………0.2% ③ パラニトロ フェノールナ トリウム ………0.3%	旭化学工業	コウライシ バ。	1000倍液 3 回 処理。 (+0, +10, + 20日, 1000 倍液 5 回処理, 2000 倍液 5 回処理)。 (+0, +10, + 20, +30+40+ 50日, 張芝後全 面茎葉処理。	鳥取野菜試, にのみやCC, 程ヶ谷CC, 西日本グリー ン研, 植調研。 (5)	継	実	[砂壤土等や せ地のような 活着の良くな い土地; コウ ライシバ]。 張芝後, 1,000 ~ 2,000倍液 1~2 l/ m ² , 全面散 布処理。

外 国 文 献 抄 録

果樹に対する glyphosate の使用

— サッカーおよび母樹に対する影響

ATKINSON D.^①, K.G. STOTT^②, N.D.
O'KENNEDY^③, W. ABERNETHY^④

AND J.G. ALLEN:

The use of glyphosate in fruit trees
---effects on the suckers and on the
trees

Weed Res. 18(1) 19-23, 1978

果樹園の雑草防除には除草剤が広く用いられて
いるが、けいぞく使用により抵抗性の多年性
雑草が増加する傾向が見られる。これに対して
は、glyphosate が有効とされている。雑草防

除の効果以外は、果樹のサッカーに吸着され、
母樹には影響を及ぼさないというのが一般の見
解であるが、リンゴではかなりの影響が見られた
例も報告されているので、果樹の種類、使用時
期の変化による影響をしらべた。

材料並びに試験方法

試験の場所、果樹の種類は次の通りであった。

Ballygagin—リンゴ(11年生), ナシ(12年生)。

Maidstone—リンゴ(9年生), 桜桃(7年生),
スモモ(16年生)。

Bristol—リンゴ(12年生)。

Armagh—リンゴ(2年生)。

各果樹は試験のはじめに、それぞれ1年生の
サッカーを着けていた。

① East Malling Research Station, Maidstone Kent, ME196BJ, U.K.

② Lon Ashton Research Station, Lon Ashton, Bristol, BS189AF, U.K.

③ Pomology Research Center, Ballygagin, Dangarvan, Co., Waterford, EIRE.

④ Horticultural Center, Loughgall, Armagh, BT618JA, U.K.

除草剤 glyphosate 2.5kg/ha を 500l の水にとかしてさんぷした。

さんぷ時期は、Ballygagin 1月22日、Maidstone (リンゴ) 1月22日、Bristol 2月3日、Armagh 2月3日、Maidstone (桜桃・スモモ) 3月25日、これらの処理期は母樹およびサッカーの休眠期であった。ついで、活動開始期の4月9日、葉が完全に展開した時期6月18日であった。

調査は1975年から1976年晩春まで定期的に行った。果樹に対する被害程度は1～5の階級でレコードした。1975年秋に、サッカーの生育・被害枯死枝等を調査した。

Maidstoneでは8月に、完全に成長した葉を採取し、glyphosate の残留量をしらべた。

結果の概要

全体として見れば、すべての試験・地点を通じて、glyphosate をさんぷしたための顕著な影響は現われていない。リンゴのサッカーについては、晩い季節のさんぷで被害が大きく現われている。Maidstoneでは、健全なサッカーが1月処理で50%、4月で25%、6月で12%であった。Armaghでは、1月～4月処理では、被害は僅かで、10月はじめには回復したが、7月処理では多くのサッカーが枯死した。無処理にくらべると、サッカーの生育は1週間おくれた。Maidstoneでは、被害が7月に見られたよりも

10月に増大した。桜桃・ナシについては、1月、4月処理でいくらか枯死した。しかし、7月処理の被害が更に大であった。被害枝の長さは、無処理区の半分に達しなかった。再生長は、7月処理で小となり、リンゴ・スモモよりも桜桃で小となった。

Bristolでは、1975年の終りにサッカーを除去した後、1976年に発生したサッカーの数は、前年度処理したものが減少した。

1樹当たり、4月処理4.5本 6月3.2本、7月1.2本であった。

Maidstoneでは、新生のサッカーも明かに葉のクロロシスや小形化など glyphosate の影響として現われた、Maidstoneでリンゴの母樹から採取した葉を分析した結果では、さんぷ時期の如何に拘わらず、glyphosate の残留は認められなかった(<1ppm)。

Bristolでサッカーの全体に glyphosate をさんぷした試験では、サッカー長の26%、全サッカー数の30%が枯死したにも拘わらず、母樹に対しては、当年および翌年に亘って被害の様相は認められなかった。

以上の結果から、果樹園におけるglyphosateの適切な使用によって、母樹に被害を与えることなく、雑草防除と同時にサッカーのコントロールを行うことができる。

[抄録者：日本植物調節剤研究協会 天辰克己]

植 調 協 会 だ よ り

◎ 第36回役員会開催す

昭和53年12月22日(金)、中央会館(東京都中央区銀座2-15)において開催し、次の議題につ

き審議の上、可決された。

議 題

1. 役員人事の件。
2. 会長報酬増額の件。
3. ブラジル支部(仮称)設置の件。
4. 除草剤・生育調節剤利用開発30周年記念お